

農作物の生育状況と今後の見通し
(暖冬に対する農業技術対策含む)

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和2年1月17日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	麦	<ul style="list-style-type: none"> 倉吉市下古川(10月31日播種)の生育は順調(12月16日時点の生育は、草丈 22.6cm、莖数 631本/m²、5.1葉、葉色はSPAD値で36.9であった。12月25日に幼穂1.5mmを確認)である。一部で出芽不良や黄化が見られる。 農業試験場(11月上旬播種)においては、幼穂形成期は早く、1/6の時点では幼穂が2~3mmであったが節間長は確認できていない。葉齢の進展は早く草丈は高いものの、葉色は薄く莖数は少ない。12月中下旬は気温の低い日も見られ、播種1か月後に比べると生育はやや停滞した状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に排水溝を確認し、必要に応じて排水溝の手直しや、追加設置を行うなどして、滞水が見られる場合は速やかに排水を促す。 第一回目穂肥の施用時期が早いと精麦率が低下するので時期を守って施用する。 雑草の発生が多い場合には、麦の生育や収穫に支障が生じる場合があるので除草剤による防除を行う。
	果樹	<ul style="list-style-type: none"> ナシ カキ ブドウ 	<ul style="list-style-type: none"> (雪害対策) 気温が高いため水分の多い雪となる可能性が高いため、雪害に注意する。 棚上に積もった雪は早めに払い落とす (霜害対策) 3月以降、暖冬により花芽の生育が進み、霜害の危険が高くなるので、霜害対策を早めから徹底する。 (栽培管理) このまま、開花期まで暖冬傾向が続くと、品種によっては開花がばらつく可能性があるため、花粉を十分に確保し、開花にあわせて、丁寧な受粉を行う。
野菜	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 【春ネギ】 暖冬の影響で平年より生育が進んでいる。 1月8日の強風により一部で葉折れがあったが生育への影響は少ない。 一部のほ場でさび病、小菌核腐敗病が見られている。 【夏ネギ】 年内定植の作型は、暖冬の影響で生育が進んでいる。 山間部では12月下旬から播種が始まり、例年より気温が高く順調に育苗中。 【秋冬ネギ】 暖冬の影響で生育良好で、2L規格中心の出荷。 気温が高いため、さび病、小菌核腐敗症の発生が例年よりも多くなっている。 生育が進み、一部で収穫遅れによる株の老化が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 春ねぎは生育が早く早期抽台の恐れがあるため、生育に応じた土寄せを行い適期収穫となるよう管理する。 秋冬ねぎは取り遅れによる品質低下がないよう、適期収穫に努める。 小菌核腐敗病の防除を徹底する。 突然の降雪に備え、積雪地帯では畝に紐を張り降雪時は紐で葉を挟んで固定し、雪による葉折れを防止する。
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> 【秋冬どり】 暖冬の影響で生育が進み前倒し出荷となっており、全体の7割程度が収穫終了。 一部でべと病、菌核病の発生が見られるが影響は限定的。 【初夏どり】 1月15日から播種が始まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も高温が予想されるため、べと病、菌核病の防除を徹底する。 初夏取り作型の育苗は高温とならないよう、ハウス内の温度管理に注意を払う。
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> 暖冬の影響で順調に生育。 	<ul style="list-style-type: none"> 気温が高く推移する予想だが、積雪で白色疫病が発生、拡大することがあるため、引き続き白色疫病の防除を徹底する。 種球ほ場では、赤枯病発生株、ウイルス罹病株の抜き取りを徹底し、健全種球の確保に努める。
	にんじん	<ul style="list-style-type: none"> 概ね順調に生育・出荷中だが、淀江地区で台風による塩害・風害を受けたほ場は生育遅れでS規格中心の出荷となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 気温が高く生育が進むため、過肥大とならないよう適期収穫に努める。
	いちご	<ul style="list-style-type: none"> 章姫の頂果房の果実肥大が例年より悪く小玉傾向で、さらに第1次腋果房の出蕾が半月程度遅れた。 病害の発生は平年よりやや少ない。ハダニの発生が確認されるほ場が散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> 出蕾が遅れていたが、出荷量が徐々に増える見込み。 葉かき及び摘果を適切に行い、適度な草勢の維持を図る。 ハダニが増加しないよう防除を徹底する。 低温期にミツバチの活動が低下しないよう、ハウス内の温湿度管理を徹底する。
花き	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 12月下旬~1月中旬にかけて播種を行っている。智頭町では発芽率は80%以上と高いが、発芽揃いがやや劣る状況(発芽勢がやや弱い)。 鳥取市:現在育苗中。無加温は12月25日に、加温は1月6日に播種が行われた。12月25日播種のは発芽を始めているところ。 【中部地区】 倉吉市:1月6日から播種を始めた。今後、順次播種予定。 北栄町:盆出し作型は12月20日に3戸で播種開始。例年より4日程度早い。現在発芽が始まっている。抑制作型は、ほとんどのほ場で収穫を終了したが、一部生産者は出荷継続中。週2回の出荷で500~1000本/日(単価130円)。 	<ul style="list-style-type: none"> 成苗率を高めるため、日中は25℃を超えないよう換気する。晴れた日中はハウス内が高温となりやすいため、特に注意する。 過湿にならないようかん水管理に努める。 暖冬傾向で苗の生育が早まる可能性があるため、肥料切れを起こさないよう適宜液肥を施用する。 発芽が揃い子葉が伸びきった時点で銅剤を散布し、病害防除に努める。 気温が高くと湿った重い雪になるため、雪害には十分注意する。
	ストック	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 鳥取市:彼岸出荷作型。現在、草丈30~40cm。花蕾が見え始めた。 【中部地区】 倉吉市:出荷中。8月下旬播種分が年明けから出荷開始。 北栄町:スタンダードは12月作型の開花が遅れ、年内出荷割合は計画対比で55%とやや少なかった。(目標は60~70%)。スプレーの年内出荷割合は約66%と順調。スタンダードは12月末~1月上旬が出荷ピークとなり、4~6万本/日(年内平均単価100円→年明け65円)、スプレーはコンスタントな出荷で1~2万本/日(年内平均単価110円→年明け90円)。目立った病害虫の発生は見られない。 【西部地区】 大山町:12月までの収穫の進捗率は約47%となっており、計画の61.8%を下回っている。花芽分化時期の高温により、出荷が遅れたことが原因と考えられる。チェリーアイアンでは一部に奇形花が発生している。12月中旬は2400本/日(前年対比150%)、12月下旬は4850本/日(前年対比75%)となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 彼岸出荷作型は暖冬により生育が早まり、出荷も早まる見込み。 菌核病、灰色カビ病防除のため、定期散布を実施する。特に菌核病は初期の病状を確認したら、直ちに抜き取ってハウス外に持ち出し、焼却、埋設等適切に処分する。 気温が高くと湿った重い雪になるため、雪害には十分注意する。 暖冬で経過すると寒冷順化が不十分なため、晴れた日の未明から明け方にかけて放射冷却による気温低下で凍霜害を受ける確率が高まる。気象情報に注意し、霜注意報が発表されたときはハウスの保温に努め、凍霜害を未然に防止する。
畜産	イタリアンライグラス	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 10月下旬播種分の生育順調、草丈10~15cm程度。 【東伯地区】 生育順調。 【西部地区】 草勢良好、暖冬・積雪なしの影響と推測。 	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 5月上旬頃収穫予定。 【西部地区】 一部で草勢旺盛な雑草による生育阻害も懸念。